

第5学年の実践

小島 歩

【单元名】「5-3いきいき大作戦!『後ろ黑板改造』提案」

【教材名】「わたしたちの『図書館改造計画』提案」(光村図書 5年)

1 学級の実態

- ・ 児童同士でつながりを持ちながら、話し合いを進めることができる。
- ・ 調べたことや聞いたことをメモすることは全員できる。
- ・ 取材経験があまりなく、取材に慣れていない。
- ・ 課題意識を持ちながら文章を書くことが十分にできない。
- ・ 他者の話を聞いたり、感想を伝え合ったりすることに対して意欲的である。

2 言語活動

相手意識	目的意識	場面意識(公/私)	ジャンル
クラスの友だち	クラスをよりよいものにするため、自分の意見をまとめ、アイデアを伝え合う。	公的	意見文

3 学習目標

(1) 態度目標

- ・ 学級活動をよりよくするため、問題点や解決したい点を進んで見つけ、創意工夫した解決策や新たな取り組みを考えることができる。
- ・ 友だちの考えや思いを知ることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(2) 価値目標

- ・ 「後ろ黑板改造」提案を書くことにより、自分たちの手で学級活動をよりよくしていくことに目を向け、自分の役割について見方や考え方を深めることができる。
- ・ 自分たちの生活をよりよくしていこうとする自治的な心を育て、社会を形成していく素地を育む。

(3) 技能目標

- ◎ 後ろ黑板の利用状況や活用状況を調査し、解決すべき問題点を取材することができる。
- ◎ 課題意識を持って情報を集め、目的に沿ったアイデアを考えることができる。
- 提案書を読み合い、自分や友だちの提案のよさを見つけることができる。

(4) 年間技能目標における位置づけ(◎は重点的に指導)

月	单元	教材	ジャンル	課題	取材	論理	構成	記述	推敲	交流
7	活動を報告する文章を書こう	次への一歩 - 活動報告書	報告文	○			◎			
9	理由づけを明確にして説明しよう	グラフや表を引用して書こう	意見文			◎			○	
12	本は友達	わたしたちの図書館改造計画	意見文		◎					○
2	構成や表現を工夫して書こう	物語を作ろう	物語文				◎	○		

4 単元構成図

単元名・教材名

「わたしたちの「図書館改造」提案」・「5-3いきいき大作戦!『後ろ黑板改造』提案」

(光村図書 5年) 総時数9時間

学習の活動目標

学習目標

第1次 (1時)

※《》は評価規準

学級生活をよりよいものにするため、自分たちの教室を見直し、改造した方がよいところについて話し合う。「5-3いきいき大作戦!『後ろ黑板改造』の提案書を書き、みんなにアイデアを伝えよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。

自分たちの学級生活をよりよくすることについて興味・関心を持つことができる。
《学級生活をよりよいものにしようということに関心を持ち、教室内の改善すべき個所を意欲的に見つけている。》

第2次 (3時)

後ろ黑板の利用状況などを調査し、解決すべき問題点を探り、話し合ったり参考資料を見つかったりして、提案書のアイデアを練る。
〈本時〉

後ろ黑板の利用状況や活用状況を調査し、解決すべき問題点を話し合うことができる。
《後ろ黑板の活用状況を調査し、問題点を整理している。》

情報を分析し、目的に沿ったアイデアを考えることができる。
《後ろ黑板改造の具体的なアイデアの提案理由や方向性などをメモに表している。》

第3次 (3時)

提案書の構成を確認して、自分の意見に説得力を持たせた提案書を書く。

提案書の構成、書き方の特徴に気付くことができる。
《提案書の構成、書き方の特徴を理解している。》

構成を考えて、自分の考えや意見を提案書に書くことができる。
《構成に注意して、説得力にある提案書を書いている。》

自分のアイデアとその効果が、クラスの友だちに伝わるように、提案書を見直し、推敲する。

自分の考えや思いがよりよく伝わる提案書になるように、文章を見直し、推敲することができる。
《文章を見直し、推敲している。》

第4次 (1時)

書いた提案書を互いに読み合い、交流し、学習のまとめをする。

自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりして、提案を交流させることができる。
《自分の考えを伝えることができるように提案書を話し言葉にしたり、友達の提案を聞いたりして、よりよい改造例を考えている。》

第5次 (1時)

提案されたアイデアの中から採用案を決め、後ろ黑板を改造する。

提案されたアイデアから採用案を決めることができる。
《自分の考えや思いを伝えることができる。》

5 学習活動と指導の実際

第一次・・

① 学習内容

本単元でどのような学習をしたいかを話し合い、学習課題を決め、学習計画を立てる。(1時間)

② 指導内容

本単元を指導するにあたって、教科書に記載されている「図書館改造」は、児童の興味・感心に沿ったものであるのか、疑問に感じた。提案書を書く題材を、児童のより身近な場所やものにする事で、課題意識を強く持ち、活動に臨むことができるのではないかと考えた。実際、単元の始めに、「わたしたちの『図書館改造』提案」を読んだ際、児童から「図書館は改造できないし、する必要がない。」という声が挙がった。

そこで、身の回りの場所やもので、改善、改造した方がよいと思うところを自由に話し合う場を設定した。すると、「5年3組の前の廊下を改造したい。」という意見と、「教室の後ろ黑板を改造したい。」という意見が出された。話し合いを進める中で、「廊下は5年3組のみんなだけが関わるものではない(自分たちだけのものではない)けれど、教室の後ろ黑板は、クラスのものだし、みんなが考えたことをすぐに実行することができる。」という意見が出され、学級全体の意識が「教室の後ろ黑板を改造したい。」というものへ繋がった。

このようにして、「5-3いきいき大作戦!『後ろ黑板改造』の提案書を書き、みんなにアイデアを伝えよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てた。学級の全児童が、後ろ黑板をよりよくするための何らかの考えを持つことができるように、一人一つの提案書を書くことを原則とし、確認した。さらに、出来上がった提案書は学級の友だちに発表すること、よりよい改造案を採用し、実際に後ろ黑板を改造することを知らせた。このことで、児童により強く目的意識を持たせることができたと考えた。また、分かりやすく書いた提案書を友だちに読んでほしいという相手意識も持たせることができた。

<学習計画>

「5-3いきいき大作戦!『後ろ黑板改造』提案」

1. 改造したい場所やものを決め、学習計画を立てよう
2. 後ろ黑板の問題点を話し合おう
3. 後ろ黑板改造のアイデアを練ろう
4. 後ろ黑板のアイデアを取材カードに書こう
5. 提案書の書き方を知ろう
6. 提案書を書こう
7. 提案書を見直し、推敲しよう
8. 提案書を交流させよう
9. 採用するアイデアを決めよう
10. 後ろ黑板改造大作戦!

第二次・・

① 学習内容

後ろ黑板の解決すべき問題点を話し合い、よりよく活用するための情報を集め、アイデアを練る。(3時間)

- (1) 後ろ黑板の利用状況や活用状況を調査し、解決すべき問題点を話し合う。(1時間) <本時1>
- (2) 本やインターネットを活用したり、インタビューを行ったりして、後ろ黑板のアイデアのもとになる情報を集める。(1時間)
- (3) 情報を分析し、目的に沿ったアイデアを考え、取材カードに書く。(1時間) <本時2>

② 指導内容

第2次第1時では、後ろ黒板の利用状況や活用の様子を調査するため、教師が利用状況に関する簡単なアンケートを用意した。アンケート用紙に答える活動を通して、後ろ黒板を自分がどのように活用しているか考えるきっかけになるようにした。さらに、アンケートの結果を発表し、後ろ黒板を有効に使えている人と使えていない人がいることを確認した。その後、「後ろ黒板を有効に使えている人と使えていない人がいるのはなぜだろう。」と投げかけ、後ろ黒板の現状についてそれぞれが考えていることや思っていることを自由に発表する場を設定した。また、話し合いで自分の意見を述べることができなかった友だちの考えを知るために、「クラスの友だちに後ろ黒板の利用状況についてぜひ聞いてみたいこと」をノートにまとめる活動を行った。

第2次第1時と第2時の間に、「クラスの友だちに後ろ黒板の利用状況についてぜひ聞いてみたいこと」を、教師がアンケート形式にまとめ、児童が回答した。

第2次第2時では、アンケート結果を見せることで、後ろ黒板に対する友だちの考えや思いを知らせた。その後、アンケート結果をもとに話し合い、後ろ黒板の問題点を以下のようにまとめた。

- ・ 係のコーナーを有効に活用している係としていない係がある。また、有効活用していても、それを見ない人がいる。
 - ・ 自分たちで考えたことを実践できる場所になっていない。
 - ・ 後ろ黒板にいろいろなコーナーがあつて、雑然としている。
 - ・ 見て楽しい後ろ黒板になっていない。
- 等

児童一人一人が、これらの中から自分の課題を1つ決めさせ、後ろ黒板の問題点を解決するためのアイデアを考える活動を行った。

アイデアを考えさせる段階では、本やインターネットを活用して調べたり、校内の他のクラスの後ろ黒板の活用状況を調査、インタビューしたりする活動を行った。

第三次

① 学習内容

提案書の書き方を理解し、提案書を書く。書いたものを見直し、説得力があるよりよい提案書になるよう、推敲する。(3時間)

- (1) 教師が用意したサンプル文をもとに、提案書の書き方を考え、構成を理解する。(1時間)
- (2) 自分の意見に説得力を持たせた提案書を書く。(1時間)
- (3) 提案書の効果を見直し、推敲する。(1時間)

② 指導内容

第3次第1時では、提案文のサンプル文を提示し、説得力ある提案書にするためにはどのようなことを記述したらよいか話し合う活動を行った。提示したサンプル文は、説得力に欠けるものを用意し、小見出し、図・表を用いたり、提案の効果を述べたりすることで、読み手に分かりやすい、また、説得力のある文を書くことができることを確認した。

第3次第2時では、第1時で話し合った構成に気を付けて、児童一人一人が提案書を書いた。

第3次第3次では、自分のアイデアとその効果が、クラスの友だちによりよく伝わるように、提案書を見直し、推敲する場を設定した。誤字脱字の確認に加え、「自分の提案をより説得力のあるかたちで、読み手に伝えるために、何か手を加えられるところはないだろうか。」と投げかけ、個々に提案書を見直し、推敲を重ねた。

第四次・・

① 学習内容

完成した提案書を読み合い、交流し、友だちの提案のよいところを見つける。学習のまとめをする。(1時間)

② 指導内容

4～5人グループで提案書を読み合い、質問したり、感想を伝え合ったりする活動を行った。その後は、振り返りカードを活用して、単元全体を振り返り、自己評価を行う活動を設定した。

第5次・・

③ 学習内容

提案されたアイデアの中から採用案を決め、後ろ黒板を改造する。(1時間)

④ 指導内容

提案されたアイデアの中から、実際に改造案として採用したいものを選ぶために、まず、全員分の提案書を読む時間を設け、どの提案がよいか選択する活動を行った。その後、全体で話し合う場を設定した。話し合いで決まったアイデアを実行するため、学級活動の時間に、学級の全員が手を加え、後ろ黒板を改造した。

6. 授業の実際

授業1 意見文の指導について

(1) 授業の計画

教師の手だて



後ろ黒板の利用状況について、簡単なアンケートを用意する。

アンケートを集約し、結果を提示する。

児童から出てきた意見を、後ろ黒板活用のよさであるのか、問題点であるのかに分け、問題点がよく見えるようにする。

【本時でつきたい力】

後ろ黒板の問題点について、自分の考えを伝えたり友だちの考えを聞いたりすることができる。

【本時の言語活動】

後ろ黒板の問題点を明確にするための話し合い活動を行う。

【本時の活動計画】

- ① 後ろ黒板の利用状況について教師が用意した簡単なアンケートに答え、後ろ黒板がクラスのものにとって有効なものになっているか考える。

《アンケート項目》

- ・1日に後ろ黒板を何回見るか。
- ・後ろ黒板のどの部分をよく見るか。
- ・後ろ黒板は積極的に活用できているか。

【めあて】

後ろ黒板の利用状況を確認し、活用のよさや問題点を話し合おう。

- ② アンケートの結果を知り、後ろ黒板の利用状況を確認する。
- ③ 後ろ黒板についてどのような思いを持っているか自由に意見を出し合い、後ろ黒板のよいところと問題点について話し合う。
- ④ 後ろ黒板に対する友だちの思いや考えをさらに詳しく知るために、友だちに聞いてみたいことを考え、ノートに書く。
- ⑤ 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。

児童の意識の流れ

後ろ黒板をみんなほどのくらい活用しているのか知りたいな。



後ろ黒板を有効に使っている人と使えていない人がいるな。それはなぜだろう。



私は、1日の予定やノートチャンピオン(児童のノートから手本になるものを選び、掲示したもの)はよく目にするけど、係からのお知らせコーナーはあまりいいないな。みんなはどうだろう。



後ろ黒板についてみんなの考えをもっと知りたいな。



(2) 授業の実際

まず、後ろ黑板の問題点を明らかにするためには、日頃の利用状況を確認する必要があると考えた。そこで、利用状況に関する簡単なアンケートを用意した。アンケートに答える活動を通して、日頃後ろ黑板をどのように活用しているか考えるきっかけになるようにした。その後、アンケート結果をクラスで共有し、後ろ黑板を有効に使えている人と使えていない人がいることを確認した。「後ろ黑板を有効に使えている人と使えていない人とがいるのはなぜだろう。」と投げかけ、後ろ黑板の現状についてそれぞれが考えていることや思っていることを自由に発表する場を設定した。

T：みんなが答えてくれたアンケートの結果をまとめるとこんなふうになりました。

(アンケート結果を見る)

みんなは、日頃、後ろ黑板をどのように使っていますか。アンケート結果を参考にしたり、普段の生活を思い出したりして、意見を出しましょう。

C1：後ろ黑板には、いろいろなコーナーがあるけど、毎日見るコーナーとたまにしか見ないコーナーがあります。

T：毎日見るのはどんなコーナーですか。

C2：今日の予定や行事予定です。

T：たまにしか見ないコーナーはどこですか。

C3：係活動コーナー…。ノート名人のコーナーは新しい人の分が貼られたら見るけど、毎日は見ません。

C4：係のコーナーは毎日新しくなっているわけじゃないから、毎日は見ないけど、新しいことが書かれていたら見ます。

T：係活動コーナーはみんなどのくらい活用できていますか。

C5：係によって違うと思います。活用できている係とできていない係があります。

T：他に気付いたことはありませんか。

C6：いろいろなコーナーがあるし、いろいろなものが貼られていて、少し雑な感じがします。

C7：確かに、いろいろなものがあってごちゃごちゃしています。

C8：私はいろいろなものがあつた方が、後ろ黑板を見る楽しさがあつていいと思います。

T：他の人はどう思いますか。

C9：私は、逆に、少し地味だと思うので、きれいに飾ったりしてもいいと思います。

児童は、自分が後ろ黑板をどの程度活用しているか、また、どのように活用しているかについて自由に意見を交換した。意見を交換する中で、自分の思いに共感する友だちがいたり、別の立場から意見を述べる友だちがいたりすることに気付くことができた。

後ろ黑板の問題点をより明確にするために、何が今の後ろ黑板のよさで、課題であるのかについてさらに話し合った。

T：今の後ろ黑板のいいところはどんなところですか。

C1：私は、係からのお知らせコーナーがいいと思います。理由は、それぞれの係で工夫して面白い新聞が貼ってあったり、楽しいことが書いてあったりして、見るのが楽しみだからです。

C2：私も、係からのお知らせコーナーがあると、それぞれの係で考えたことをみんなに知ってもらえるのでいいと思います。後ろ黑板に何を書くのか考えるのも楽しいです。

C3：僕は、係のお知らせコーナーが場所を取りすぎているのもう少し小さくして、みんなが自由に使えるスペースを作った方がいいと思います。

C4：自由って。

C5：絵を描いたり…。

話し合いを進める中で、児童が現状の後ろ黑板にどのようなよさを見出しているのか、また、どのような課題を感じているのかが見えてきた。しかし、後ろ黑板のよさや課題は、人それぞれで考えが異なることも見えてきた。

また、クラスみんなのために後ろ黒板を改造するのであるならば、話し合いで発言しなかった児童も含めて一人一人がどう思っているのか知る必要があるとの意見が児童から出された。この発言を受けて、ある児童から、「クラス全員の考えを知るためには、それぞれがみんなに聞きたいことをピックアップし、それをまとめてアンケートにしたらよいのではないか」という意見が出された。そこで、「これはぜひ友だちに聞いてみたい」ということをノートに挙げさせ、教師がアンケートとして集約することにした。次時までには、児童がアンケートに答えた。次時ではアンケート結果をもとに、後ろ黒板の課題について再び話し合うことを確認した。

6. 授業の実際

授業2 意見文の指導について

(1) 授業の計画

教師の手だて	【本時でつきたい力】	児童の意識の流れ
	<p>調べた情報をもとに、後ろ黑板改造のアイデアを考え、ワークシートに書くことができる。</p>	<p>インターネットや本、他のクラスへのインタビューを通してたくさんの情報を集めたけど、どれをもとにしてアイデアを練ろうかな。</p>
<p>アイデアがより具体的なものになるように、図とことばでアイデアを書くことを指示する。</p>	<p>【本時の言語活動】 後ろ黑板の活用アイデアを考え、ワークシートに書く。</p>	
<p>アイデアをより深めるため、友だちとアイデアについて対話する時間を設ける。</p>	<p>【本時の活動計画】 ① 前時の学習を振り返り、めあてを確認する。</p> <p>【めあて】 調べたことをもとに、後ろ黑板活用のアイデアを考えよう。</p>	<p>図とことばを使ってアイデアを書くと、細かいところまで考えられて、アイデアが具体的になったよ。</p>
<p>机間指導を行い、児童のアイデアについて、質問したり助言を与えたりする。</p>	<p>② 調べたことを整理し、後ろ黑板活用のアイデアをワークシートに図とことばで書く。</p> <p>③ グループでアイデアを交流し、アイデアを深める。</p> <p>④ 対話を通して、友だちからもらったアドバイスや深まった考えを、ワークシートに書き加える。</p> <p>⑤ 本時を振り返り、学習のまとめをする。</p>	
		<p>友だちからの質問に答えたり、意見を聞くことで、アイデアが深まったよ。</p>
		
		<p>今よりもよい後ろ黑板にするために早く提案書を書きたいな。</p>
		

(2) 授業の実際

まず、いくつか調べた情報の中から、必要な情報を整理し選び出すために、前時までのワークシートを振り返る活動を行った。そして、「自分が考えた活用のアイデアをどのようにまとめたら、読み手によ

り伝わるものになるのだろうか。」児童に発問した。「ことばだけでアイデアを説明されても、きちんと伝わらないと思う。」という児童の発言から、考え付いたアイデアを、図とことばを組み合わせさせて提案書に書き表すことで、自分の考えを相手によりよく伝えることができることを話し合った。そこで、まず、アイデアを図に表し、さらに詳しい説明をその図の中に短いことばで書き加えることを確認し、一人一人が自分のアイデアをワークシートに書く活動を行った。

次に、一人一人のアイデアにより具体性を持たせるため、グループの中で、それぞれのアイデアをワークシートを見せながら説明する活動を行った。

- C1①児： わたしが考えたアイデアは、後ろ黒板に「〇〇チャンピオンコーナー」をつくるというものです。
- C2②児： それは詳しく言うとどんなことをするんですか。
- C3①児： (ワークシートを見せながら)
まず、〇〇のところはみんなで話し合って決めます。例えば、〇〇のところ「自主勉強」だったら、その期間の間、自主勉強をたくさんした人がチャンピオンになります。チャンピオンになったら、帰りの会で金メダルをあげたり、賞状をあげたりします。
- C4③児： よく分かりました。チャンピオンにあげるメダルや賞状は誰が作るんですか。
- C5①児： それは…このアイデアが採用されたら、みんなで話し合ったらいいと思います。
- C6③児： 提案するんだからそれもちゃんと決めておかないといけないと思います。
- C7②児： 私は、チャンピオンコーナー、いいと思います。チャンピオンコーナーができると、みんなが頑張ろうと思うと思います。でも、いつも同じ人がチャンピオンになったり、一度もチャンピオンになれない人がいたら、かわいそうだと思います。
- C8④児： 苦手なことが〇〇の中に入っていると、いやだなと思う人もいるかもしれないですね。
- C9①児： 1週間で〇〇のところを変えていくと、チャンピオンになれるチャンスが増えるかもしれないですね。
- C10②児： 〇〇のところを、勉強やスポーツのことだけじゃなくて、「やさしさチャンピオン」とか「あいさつチャンピオン」にすると、みんながチャンピオンになれるチャンスができると思います。

児童は、自分で考えたアイデアを説明したり、友だちからの質問に答えたりする中で、アイデアをより具体的なものにすることができた。そこで、友だちとの対話を通してより詳しく考えたことや修正したいと思ったことを付箋に書き、ワークシートに貼る活動を行った。

「ふり返り」に書かれた児童の感想は、以下の通りである。

- ・ 友だちに自分が考えていることを伝えることはとても難しかったです。でも、図を見せながら説明すると、みんなが「分かりやすい」と言ってくれたので、うれしかったです。
- ・ 自分の考えをみんなに話すと、「そのアイデア、いいね。」と言ってくれました。すごくうれしかったです。
- ・ アイデアを説明すると、Aさんが「こんなふうにしたら。」とアドバイスをしてくれました。自分では思い付かないことだったので、友だちと話をしてよかったと思いました。

対話を通して、友だちがアドバイスをくれたり、自分のアイデアに付加価値を与えられたりした児童は、次時に向けて、「みんなにいいと思ってもらえるアイデアの提案書を早く書きたい。」という思いを膨らませていった。この点で、本時の学習は、児童の意欲を高めることにつながったと考える。

しかし、対話を通して、自分の考えがぶれたり、どうしたらよいかわからなくなった児童もいた。そこで、教師が助言を与えたり、「このアイデアのここがいいね。」とアイデアに価値付けを行うことで、児童の考えや思いを大切にしたい指導を心がけた。

7 実践のまとめ

(1) 成果

価値目標

- ・ 学級活動をよりよくするため、問題点や解決したい点を進んで見つけ、創意工夫した解決策や新たな取り組みを考えることができる。
- ・ 友だちの考えや思いを知ることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

改造する場所を児童にとって身近なものにしたことで、意欲的に問題点を話し合っていた。改造する場所を、教室の後ろ黑板にするか、教室前の廊下にするかという話し合いがあったが、後ろ黑板にしたことで、「自分たちのものを自分たちで責任を持って改造するんだ。」という目的意識をしっかりと持たせることができた。また、それぞれの提案書を交流したことで、「友だちはクラスをよくするために、こんなことを考えたんだな。」「自分の意見もいいけど、みんなが考えたアイデアもいいな。」など、互いのよさを認め合ったり、再発見したりすることにつながった。

態度目標

- ・ 「後ろ黑板改造」提案を書くことにより、自分たちの手で学級活動をよりよくしていくことに目を向け、自分の役割について見方や考え方を深めることができる。
- ・ 自分たちの生活をよりよくしていこうとする自治的な心を育て、社会を形成していく素地を育む。

これまではリーダーを中心に、行事や学級活動が進んでいく傾向があった。しかし、「学級を作っていくのは一部のリーダーではなく、ここにいる私たち一人一人なんだ。」ということに気付いてもらいたいと思い、今回は、一人に付き、一つの提案書を責任を持って作ることにした。

普段はおとなしく、リーダーの後についていくような児童も、一生懸命アイデアを練り、責任を持って自分の考えを提案することができた。リーダーを中心にクラスをまとめていくことも大切だが、一人一人が5年3組の大切なメンバーであり、クラスをよりよくしていくためには、みんながそれぞれの立場からできることをしていかななくてはならないということを改めて確認することができた。

技能目標

- ◎ 後ろ黑板の利用状況や活用状況を調査し、解決すべき問題点を取材することができる。
- ◎ 課題意識を持って情報を集め、目的に沿ったアイデアを考えることができる。
- 提案書を読み合い、自分や友だちの提案のよさを見つけることができる。

後ろ黑板の問題点を明確にすることができたため、一人一人が課題意識をしっかりと持って、取材活動に取り組むことができた。また、取材活動を通して集めた情報を、自分たちのクラスに合うアイデアへと変化させる児童の姿も見られ、真剣に学習に取り組んでいる様子が感じられた。

(2) 課題

- ・ 情報収集の際、参考になる資料を用意することがなかなかできず、どのようなアイデアを練ったらよいのか、戸惑いを見せる児童もいた。
- ・ アイデアを練る際、取材したことをもとに自分で新たなアイデアを考えられた子もいたが、取材したことから離れられず、なかなか自分らしいアイデアを練ることができない児童もいた。

(3) 単元を終えて

取り扱う改造場所を、教室の後ろ黑板にしたことで、児童は、課題意識を明確に持ち、活動することができた。それまでの学級活動や行事では、リーダーが中心となって活動を行っていく傾向があったため、クラスの中には自分の考えを持つ前に行動していた児童もいた。「自分たちの場所を自分たちの手で責任を持って改造したい」という思いのもと、児童一人一人がアイデアを考えることができたことで、「クラスはみんなで作り上げていくものである」ということを改めて確認できたように思う。

また、「自分たちの手でクラスをよりよくしたい」という児童の熱い思いに、私自身が気付けたことも、とてもよかった。子どもの思いやつぶやきに心を傾けるということを改めて考えさせられ、自分の学級経営を見つめ直すよききっかけとなった。

後ろ黑板改造のアイデアとしては、「5-3 ○○グランプリ」というアイデアが採用された。これは、月に一度みんなで頑張ることを決め、その目標に向けて励まし合いながら共に伸びていこうとするアイデアである。例えば、「クラス全員で挑戦！3分間で大縄跳び200回」という目標のもと、自分たちで声を掛け合っ、休み時間に練習している姿が見られた。中には大縄が苦手な児童もいたが、友だち同士で励まし合ったり、背

中を押して跳べる手助けをしてあげたりする姿が見られるようになり、思いやりや優しさの輪もクラスに広がったように思う。また、3学期の係決めの際には、「友だち一人一人のよいところを見つけ、それを表彰したらクラスみんなも嬉しいし、みんなももっと頑張ろうと思う。」ということで、「みんなのことをいつも見てますよ係」という係ができた。以前にも増して、子どもたちが自分たちで励まし合い、支え合い、共に伸びていくことを喜ぶ姿が見られるようになった。この学習を通して、児童が自分たちの手でクラスを造っていかうとする姿が見られるようになり、大変嬉しく思った。自治的な学級づくりの第一歩を踏み出せたと考える。